

# 耳の聞こえ

## 補聴器の選び方



**宣 言**

明るい笑顔    すぐ返事    伝える元気

かちどき薬品 ホームページ  
げんき君 健康に関する情報がいっぱい  
<http://www.genki1616.co.jp>

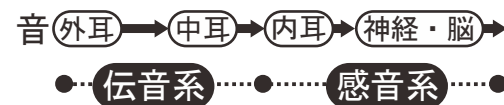
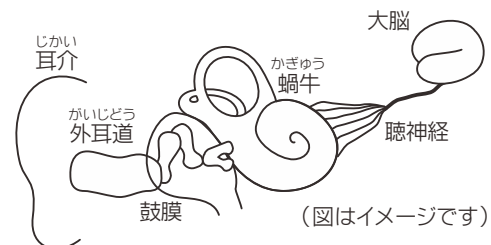
かちどき薬品グループ

## 「聞こえ」のしくみと「難聴」

私たちは普段、身の回りの音や声を耳から取り入れて、聴覚によって聞いています。聞くことで周囲の状況を把握し、情報を得られ、コミュニケーションにも役立っています。

### 「聞こえ」のしくみ

耳から入った音は、外耳→中耳→内耳→神経・脳へと伝わります。このうち、どこかの機能が低下して聞こえにくくなった状態を「難聴」と言います。機能が低下した場所によって聞こえ方が異なり、種類が分かります。

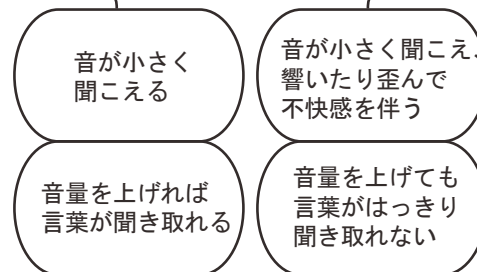


### 「難聴」の種類

「伝音性難聴」「感音性難聴」、その両方に障害のある「混合性難聴」に分かれます。

感音性の場合、さらに聴力が低下する可能性があり、補聴器の使用にも限度があります。

機能が低下すると



### 聴力レベル

聞こえの度合いを、音の大きさ(dB)で表すのが「聴力レベル」です。日常の会話に支障を感じる40dB以上から、補聴器の使用を考える人が多いようです。70dB以上で障害者手帳の認定対象となります。

dB	音の大きさ	聴力の程度
0dB		WHOの分類
30dB	ささやき声	軽度
40dB	静かな会話	
50dB		中程度
60dB	普通の話し声	障害者手帳 準重度
70dB		
80dB	大きな声の会話	障害者手帳 重度
90dB		
100dB	耳元での叫び声	障害者手帳 最重度

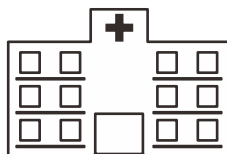
# 聞こえにくいと気付いたら

話し声や音が聞こえにくいと感じることはありませんか。  
高い音域が聞こえにくい、逆に低い音域が聞こえにくいなど、  
人によって聞こえ方は異なり、その原因はさまざまです。  
異常に気付いたら、まず早めに受診することが大切です。

- 耳鼻科を受診する(聴力の測定、相談)



- 補聴器の購入を検討する



※市区町村より購入補助金が給付される場合もあります。  
(自治体によって申請や給付の条件などが異なります。  
お住まいの地域の福祉課などで事前に確認しましょう。)

## 加齢による聴力の低下

高齢になるに従って、徐々に聴力が衰え、  
耳が遠くなる人が増えてきます。  
「加齢性難聴」とも呼ばれ、本人よりも先に  
周囲の人が気付くことが多いようです。



### 「聞こえ」のセルフチェック

- 声が大きくなったと言われる
- 人が大勢いる中での会話が聞き取りにくい
- 声は聞こえるが、何を話しているのかよくわからない
- テレビのボリュームが大きい
- 講演などの話が聞き取れない
- 思わず聞き返してしまうことが多い

# 補聴器を知る

## 補聴器とは

補聴器は、正常な聴力を取り戻すものではなく、  
耳の機能の低下した部分を補う医療機器です。



## 補聴器のメリット

何でも聞こえるように  
なるわけではありません

- 会話がより楽しくなる

聞き違いや聞き取りにくさが減り、会話がスムーズになります。

- 積極性・行動力が増す

会話がスムーズになることで、趣味の集まりなどにも積極的に  
参加でき、講演会などの話も聞き取りやすくなります。病院や  
銀行で名前を呼ばれたときによく聞こえ、対応が早くなります。

- 安全性が高まる

自動車などの音に気付きやすくなり、危険を回避できます。



## さまざまな種類

補聴器は形のあいだだけではなく、  
機能上もさまざまな種類があります。

- ◎対面での会話用  
(耳穴型、耳掛け型、ポケット型、骨導型など)
- ◎聞こえの程度に応じたもの  
(軽い難聴用～高度の難聴用)
- ◎使う場所に合わせて必要な機能を備えたもの  
(家庭、騒音のある戸外、大勢の人が集まる所など)
- ◎遠くの話聞き取るFM補聴器
- ◎テレビの音を聞けるコードレスイヤホンタイプ  
(赤外線、磁力など)
- ◎お風呂や温泉にも入れる防水機能付き など

耳穴型



耳掛け型



ポケット型

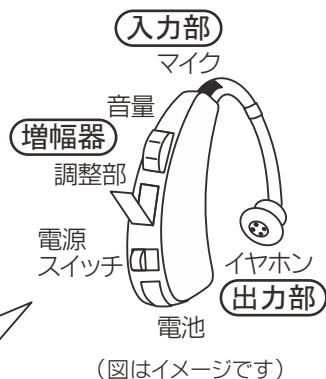
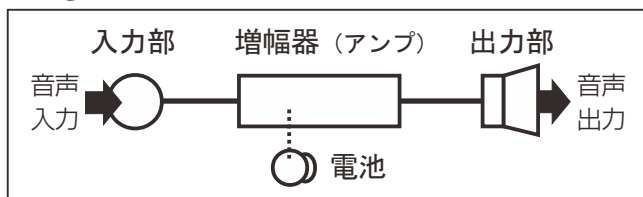


骨導型



# 補聴器を知る

## 構造と機能



**入力部** 周囲の音(音声)を取り込むマイク。  
正面からの音を優先的に取り込むものが多い。

**増幅器** マイクで取り込んだ音を聞き取りやすくする。  
《増幅器の機能》

音量を調整する  
小さな音を大きくしたり、大きすぎる音を抑える。

音質を調整する  
言葉がモゴモゴしたりキンキンするなど、違和感のある音質を調整する。

騒音を抑制する  
周囲の雑音を抑える。機器によって抑え方に違いがある。

**出力部** レシーバー(イヤホンなど)によって音を受け取る。

**電池** 機器によりサイズや規格が異なるので、専用の電池を使用する。

### 補聴器のデジタル化

従来のアナログ式補聴器は小さな音も大きな音も同じように大きくするものでしたが、デジタル式補聴器では、小さな音はしっかり増幅しながら、大きな音は大きすぎないように自動的に処理され、耳にやさしく届くようになっています。

デジタル式は音量の調整のほかに、音質の調整、雑音の抑制など、きめ細かく調整しやすい特質があります。

低価格化も進み、デジタル式の補聴器が大半を占めてきています。

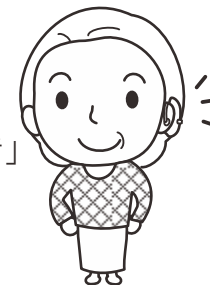
# 購入するときは



## どう選ぶ?

補聴器は主に生活の場で使われる医療機器です。合わないものを使っていると、かえってストレスになることがあるため、慎重に選びましょう。補聴器の購入を検討する際は耳鼻科で耳の機能の状態をよく調べ、目的に合わせた機種を選び、時間をかけてしっかり調整する必要があります。

補聴器は、「買ってつければ聞こえる」わけではなく、また「高価＝よく聞こえる」と一概には言えません。購入する人に対して、これらのことを正しく説明し、その人に合わせた調整ができる「認定補聴器技能者」のいる店に相談することをおすすめします。自分に最適な補聴器を選ぶためには、医師による処方と販売店の紹介を受けるとよいでしょう。



## 気をつけたいこと

- 買う前には必ずフィッティング(試聴・調整)をする
- 通信販売での購入は慎重に
- 補聴器に似た製品もある

「補聴器」という名称で販売されている製品は、効果や安全性について一定の基準をクリアし、厚生労働省から医療機器として認定されているものだけです。

見た目は補聴器のような形をした「集音器」「助聴器」「音声増幅器」などと呼ばれる製品は医療機器ではなく、補聴器と同じような機能や効果が得られるとは限りません。

# 購入するときは



## チェックポイント

### ●「聞こえ」の状態を伝える

医療機関での診断結果や聴力検査の結果などを持参します。

### ●自分の希望を伝える

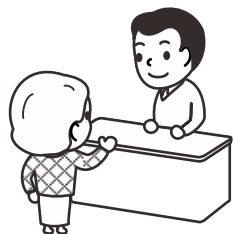
#### ◎状況

どんなときに困るのか、どんな場面で何を聞き取りたいか、などを具体的に伝えましょう。

#### ◎購入したい補聴器の形

#### ◎予算

信頼できる店選びも大切です



### ●聞こえ方や操作方法を確かめる

音の聞こえ方、装着したときの不具合、操作のしやすさなどを、実際に手にとって試聴して確かめましょう。

### ●調整して聞きやすくしてもらおう

できれば数日間貸し出しを受け、日常の生活で聞こえの具合を確かめてから、微調整を依頼するとよいでしょう。

## 購入した後は

### ●よりよい効果を得られるように、使い方をマスターする

### ●定期的に機器の点検やクリーニングをする

### ●不具合があるときは、購入店に調整を依頼する

### ●聴力検査を定期的に行い、機器の再調整や適した補聴器の見直しをする



## 補聴器を使っても聞き取りにくいとき

補聴器を使うと聞こえは改善されますが、よく聞き取れる条件と聞き取りにくい条件があるので注意が必要です。

◎聞き取りやすい	×聞き取りにくい
1対1の会話	会話する相手が多い
相手との距離が1～3m位まで	相手との距離が遠く離れている
静かな場所	周りの雑音がうるさい
正面からの対話	後ろや横からの声かけ
ゆっくり話す	早口で話す
明瞭な声	声は大きい音が質が悪い
生の声	マイクやスピーカーを通した声



## 補聴器以外に聞こえを補助するもの

聞こえを補助し、不自由さを軽減するための道具は補聴器以外にもいろいろあります。

- ◎マイクで集音してイヤホンなどで聞く機器
- ◎耳にあてて聞く機器
- ◎電話機につけて補助する機器
- ◎光で伝えるもの(電話、インターホンなど)
- ◎においで伝えるもの(火災報知器)
- ◎振動で伝えるもの(呼び出しなど)
- ◎筆談の道具



## 聞こえにくい方とのコミュニケーション

話しかけるときは、次のようなことに配慮しましょう。

- 話し始める前に声をかける
- 顔を見ながら、ゆっくり、はっきりと話す
- 簡潔で短い文にする

明るく静かな所で話しましょう。